

# 久喜市消防団 女性消防団員インタビュー

今回、インタビューに参加いただいた女性消防団員の方々です。

**松本 祐希 さん 久喜市消防団本部 入団6年目**

**鈴木 いつか さん 久喜市消防団本部 入団6年目**

**大出 陽子 さん 久喜市消防団本部 入団6年目**

※入団は平成25年度現在。

## 入団のきっかけ

松本さん

わんぱく盛りだった息子（当時2歳）は、ダイナミックな遊びが好きでケガが絶えなかったり、食べ物を喉に詰まらせそうになったりと、日々の生活でたくさんヒヤッとする場面がありました。

何かあった時、私はどうしたらいいのだろう。大切な我が子を守るのは、母親の私しかいないと思い、応急手当を学びたいと考えるようになりました。

一方で、息子の成長とともに、外へ出かけることが増え、地域の方々が、安心・安全の為に色々な活動をしていることを知りました。

子育ては周りの沢山の友達に助けられていたと感じ、「息子のため、地域のために、何かできることはないだろうか・・・。私も誰かの役に立ちたい・・・」そういった思いが私の中に芽生え始めました。

そんな時、母の知り合いの消防団長さんから久喜市に女性消防団が発足することを知りました。

「子供の面倒は見るから入団してみれば」と母に勧められ、団長さんからも「入ってみたら」と言われたのがきっかけで入団しました。

また、入団する前は、消防団の存在を知っていましたが、女性消防団員が何をするか知りませんでした。

説明を聞くうち、不安に思っていた火災現場での消火活動に女性消防団は出動しないことがわかりました。

女性消防団は、普通救命講習会での応急手当の普及や広報活動がメインであることが分かり、それなら出来ると思い入団を決めました。

### 鈴木さん

高校の同級生だった松本さんから入団の勧誘を受けました。

当時、子供が1歳と3歳と小さかったので消防団で活動することは大変と思い、初めは断っていました。

下の子供が2歳になった時に松本さんの熱意のある勧誘と家族が子供の面倒をみてくれること、家族のみんなが入団することを応援してくれたので入団しました。

### 大出さん

幼馴染の鈴木さんから消防団に誘われたのですが、初めのうちは断っていました。消防団の存在は知っていましたが、女性消防団員がいるとは知りませんでした。

鈴木さんから話を聞くうちに、女性消防団の活動が、火災現場での消火活動は出動せず、救命講習の指導や広報活動を主に行うことがわかり、それだったらできるかな！？と思い入団を決意しました。

## 消防団に入団して

### 大出さん

入団して、地域の方々に救命講習を教えられるよう私も応急手当指導員講習を受けました。

実生活で何かあった場合に、役に立つ知識を得られたと思います。

救命知識を知っていると知らないでは、「いざという」大きな違いです。

家族はもちろん、近所で何かあったときなど「時と場所を選ばず救命知識はどこでも使える」と実感しています。

### 鈴木さん

入団した年は、消防署の職員から救命講習の知識や実技を熱心に、丁寧に教わりました。

その経験を活かし、実際の講習会では、受講者の方々へ教えています。受講者の方から「女性もいるんだね!」「会場の雰囲気明るくなるね!」との話をいただいています。

講習会では身振り手振りの受講だけでなく、体に触れて教えることもあり、女性から「やりやすいね」など喜ばれることが嬉しいです。

### 松本さん

救命講習会を子供と一緒に受講しました。救命講習会で得た知識により会社で怪我した人に応急処置をできることで、感謝されたり、安心感を与えることができます。

このようなことが、周囲にいい影響を与え、安心感を与える消防団にしていきたいです。「会社に1人は消防団員」が居てほしいな。

## これからの目標

### 松本さん

母親が東日本大震災の際被災地に行った際、被災者の方々にできた事は、「居るだけ、手を握るだけ」だったそうですが、その行動が人を救う行動の第一歩だなと感じました。

私達は、日本にいる限り災害とはいつも隣り合わせです。

しかし、いざという時には、ここにいるみんなとは別々の地域で個々で活動をするから、今、私にできることは、知識を身につけることで、その場にあった危険に対し、機転をきかせることのできる人間になることです。また、そうならないと家族を守れないと実感しています。

### 大出さん

東日本大震災から年月がたったことで、皆さんの危機意識から大分薄れてしまっているように感じています。

消防団の活動をしているからこそ、年に何度かですが救命講習会の中で、災害や救急の現場の話になった時などに危険を身近に感じることができるので、もっと知識を深め、色々な危険に対応できればと思います。

### 鈴木さん

女性消防団員の研修で、倒壊した建物で人が下敷きになってしまったらという講習を受けました。

トリアージの方法、倒れた人を運ぶ方法、あらゆる災害・危険な状況において、何が私たちにできるかなど素晴らしい講演とシュミレーションを体験することができました。

教えてもらった知識を体験しながら覚えることのできるよう、寸劇を作り、講習会で子供たちに見ていただきたいです。

## 入団を迷っている方へ

鈴木さんから

久喜市消防団 女性消防団員の活動は、広報活動や救命講習会での指導がメインで消火活動はありません。

消防団は、「大変な活動をする」と思われ、入団に抵抗がある方が多いと思いますが、消防団の活動は楽しいし、勉強にもなり、生活に役立ちます。

私は消防団でもっと、もっと活動したいです。

みんなで消防団に入りましょう！！